

## 徽典会「芙蓉会」

### 第三十四回総会報告

今井三津子・一瀬まゆみ

令和七年五月十八日(日)山梨大学J号館において、第三十四回総会が、会員百四名の参加を得て開催されました。

【第一部 総会】(司会 副会長 沢登美千子)

○挨拶 物故者への黙祷、清水副会長のはじめの言葉の後、祝会長より「芙蓉会誕生は平成四年のこと。芙蓉会を立ち上げてくださった方々の熱い思いに心を馳せている。三十四回目の今年も、お金を掛けずに手を掛け心を掛ける総会を目指して準備してきた。戦後八十年目に傘寿を迎える方々をお祝いし先輩方に感謝を伝える機会としたい」と挨拶がありました。

続いて、本年度より徽典会会長にられた長谷川千秋様より「教育学部では、近年の教員不足に対して、卒業後に県内の小学校の教員になることを目指した専門的な学校教育を学ぶ「山梨県小学校教員養成特別教育プログラム」を実施し本年度「やまなし小学校教育コース」に再編し五年目となった。また、

教職大学院では、新年度から特別支援教育を専門的に学べる分野を設置する予定である」等の挨拶をいただきました。

○来賓紹介 徽典会会長 教育学部長長谷川千秋様  
筆頭副会長 永田徹様 事務局長 青柳達也様を紹介しました。

○議事(議長団 五味美智子 八野久子)

- ①令和六年度会務報告
- ②令和六年度会計報告・同監査報告
- ③令和七年度活動のめあて(案)
- ④徽典会「芙蓉会」規約の改正(案)について
- ⑤その他

①②は一括提案され、③④も含めて全て承認。⑤で新理事一人の紹介がありました。

○花東贈呈(昭和四十二年卒までの方)

傘寿を迎えられた十四名を含め二十四名の方々に鉢花を贈呈しました。四十二年卒を代表して樋口高子様より、「入学したときは学芸学部だったが、卒業時は教育学部第一期生として卒業した。戦後八十年の今年、世界各地に戦争があり、沖繩の現状を見ると日本も戦争ができる国になってしまおうのではないかと心配している」等の挨拶をいただきました。

【第二部 講演会】

担当 当番学年（昭和五十二年卒）

（司会）星ひろ美、挨拶 大野淑恵

演題 はっちゃんの沖縄戦 ～「忘らんで！」

いのちの叫びに衝き動かされて

講師 高野 裕氏

北杜市出身で、甲府市池田尋常小学校第十代校長だった八巻太一は、三十三歳で定年退職後、全財産を注いで私立沖縄昭和女学校（後に昭和高等女学校）を設立するなど女子実業教育に心血を注いだ人です。講師の高野裕氏は、二〇一〇年、甲府市立池田小学校校長として在職中、元昭和高等女学校梯梧同窓会会員の「はっちゃん」からの電話により、「はっちゃん」の母校、昭和高等女学校と池田小学校との因縁を知りました。そして、「はっちゃん」の沖縄戦で犠牲になった友や師、消し去られてしまった母校への熱い思いに心を揺さぶられ、それらを伝える役割を自らに課し、ライフワークとすることを決意したのだそうです。映像を交えながら彼女が伝えたかった思いの一部を、次のように熱く語ってくれました。

\*「ひめゆりだけが学徒じゃないよ！」

\*「戦争や基地のことは言うな。沖縄の復興が先だ」と言われ、わが子にも戦争を語らなかつた後悔。

\*一日たりとも忘れることができないのは、いくつ

もの地獄を同時に一カ所に集めたかのような、悲惨極まる沖縄戦の生々しい体験。

講演の最後に、沖縄を自分ごととして平和を考える糸口にすることで、日常の何気ない行為を平和の種をまく土壌づくりととらえ、みんなで考え対話することが大切であるときとまとめていただきました。

戦後八十年の節目の年に、改めて平和とは何かを考え見つめ直す貴重な機会となりました。

○当番学年の引継ぎ 当番学年が、昭和五十二年卒から五十三年卒に引き継がれました。

沢登副会長の、第一部・二部ともに盛会であったことへの感謝と終了のことばで閉会となりました。四十二年卒以上の方々の記念写真を撮影し、後日郵送しました。

